

第4回川ごみサミット in 下諏訪（主催：全国川ごみネットワーク）参加報告

川ごみ問題を考える＜第4回川ごみサミット in 下諏訪＞に、当協議会として初めて参加しました。このサミットは、全国川ごみネットワークが毎年開催している意見交換会で、市民・NPO、国・自治体、事業者など関係各主体が一堂に会して、川ごみ問題に関する情報提供や意見交換を通して、川ごみ問題を考えるイベントです。

今回は、2018年11月24、25日に長野県下諏訪町で＜世代をつなぐ、持続可能な活動をつなぐ＞をテーマに開催され、事例報告や意見交換を通じた交流会と、諏訪湖の湖岸清掃が行われました。当協議会下記の様にコメントしました。



（写真は、諏訪湖の湖岸清掃の様子）

＜プラスチック容器包装リサイクル推進協議会＞

私たちは、この問題の当事者で、環境省、経済産業省など国をはじめ、各関係者とも意見交換してきた。私たち事業者は製品を供給する責任と、どのようにごみの排出抑制、資源循環、持続可能な素材にしていくかのテーマがあり、それらに前向きに取り組んでいる。

ワンウェイのプラスチックの排出抑制との意見があるが、プラスチック容器包装が環境・資源保護に貢献している事例も多々ある。例えば、マヨネーズの容器は優れた機能があり、長期保存の機能で食品ロスに貢献している。

生分解性プラスチックについては、まだまだ開発途上であり、使用後の処理もまだきちんと検証できていない。マイクロプラスチックについても、科学的な知見がまだ十分には検証されていない。

一方で、犯罪行為であるポイ捨てを防止することが重要と言われるなど、資源循環時代への転換点を迎えていると思う。

プラスチックの機能を理解いただき、利便性を維持し、資源を守ることを連携してすすめてほしい。事業者として供給責任、社会に対する責任を果たしながらどのように環境を守っていくか、できることをきちんとやっていきたい。

以上